

な到達すべきゴールと課題を記述する

CP 1.1 CP 5.9 CP 5.11

ステップ・バイ・ステップのアクションプランを作成することにより課題を達成するための戦略を念入りに計画する

CP 1.3 CP 2.3 CP 2.8 CP 3.4 CP 4.8 CP 5.7 CP 5.8 CP 5.13 CP 5.14 CP 5.15

CP 5.16 個人やグループの教育資材のサポートとして記憶に残るメッセージを書く

アクションプランを実行するためのコミュニケーション能力

CP 2.2 CP 2.5

CP 2.10 プロフェッショナルならびにコミュニティ組織で従事する

CP 2.12 CP 3.2 CP 3.5

CP 5.17 効果的にコミュニケーションすることによりプロセスの向上やプロジェクト導入のためのアクションプランを活用する

CP 5.18 CP 5.19

アクションプランの導入と実行

CP 2.2 CP 2.12 CP 3.2 CP 3.5

ゴールと課題に基づいてアウトカムを評価する

CP 1.1

CP 5.20 アクションプランから行動を選択してモニターすることにより個人やグループを支援する

CP 5.21

顧客の満足度評価

CP 5.22

事例 ④ University of Medicine & Dentistry of New Jersey (UMDNJ) Dietetic Internship for Graduate Students

ニュージャージー医科歯科大学大学院生のためのインターンシップの事例

市川 陽子

静岡県立大学准教授

1. ニュージャージー医科歯科大学の概要

ニュージャージー州は、米国東部の大西洋沿岸に位置する。州の北東はハドソン川越しにニューヨーク州に接し、西はペンシルバニア州に、西南の一角はデラウェア湾を挟んでデラウェア州に接している。州都はトレントン市、州の最大都市はニューアーク市である。

ニュージャージー医科歯科大学 (University of Medicine & Dentistry of New Jersey : UMDNJ) は、米国内最大の州立、独立経営の公衆衛生科学大学で、学生数は 5,500 人以上、州内の 5 つのキャンパスに 3 つの医学部 (New Jersey Medical School, Robert Wood Johnson Medical School, School of Osteopathic Medicine)、生物医科学大学院 (Graduate School of Biomedical Sciences)、同州唯一の歯学部 (New Jersey Dental School)、看護学部 (School of Nursing)、公衆衛生科学部 (School of Public Health)、および医療従事者養成学部 (School of Health Related Professions : SHRP) を擁している。ニューアーク市のキャンパスにあるこの SHRP には、学部学生を対象とした 8 学科と、大学院の 8 学科 (日本における分野) がある。登録栄養士 (RD) のためのインターンシッププログラムは、大学院の栄養科学分野 (Department of Nutritional Sciences)

に設置され、後述するように、認定要件を満たした大学の栄養学学士あるいは関連分野の学士号取得者に対して、もしくは、大学院修士課程の必修科目 (統合インターンシップ) として用意されている。この大学院栄養科学分野は、健康科学専攻 (Ph.D. - Nutrition Track の学位取得が可能)、臨床栄養学専攻 (DCN : 臨床栄養学実践博士 または MSc の取得が可能) を備え、特に後者では、研究と実践の両面において高い専門性を有する人材を育成している。

ニューアーク、ニューブランズウィック/ピスカタウェイ、スコッチプレーンズ、カムデン、ストラットフォードのキャンパス内にある UMDNJ の医療施設には、毎年 200 万人以上の患者が訪れている。UMDNJ は大学病院のほか、ニューアークに、レベル 1 外傷治療センター (Level I Trauma Center)、メンタル・ヘルスおよび依存症治療のサービス・ネットワークである大学行動医学ヘルスケア (University Behavioral HealthCare) を置き、運営している。

2. UMDNJ のインターンシップにおける教育理念および目標

UMDNJ のインターンシップ (Dietetic Internship) プログラムでは、教育の理念および目標について、以下のように掲げて

いる。

- 臨床ならびに栄養教育において幅広い実務経験をすることにより、インターンが新人レベルとして十分な実務遂行能力を習得すること
- 伝統的な医療施設ならびに発展的なプログラムを有する医療施設において革新的な臨床ならびに教育経験を積むことによって、ヘルスケアの分野における栄養療法の役割の発展に必要なスキルを習得すること
- 生涯にわたって学び、プロフェッショナルの向上を奨励すること
- 栄養専門家として専門職域における職責を全うし、専門職の組織に貢献するという感覚を身につけること
- 栄養専門家として研究の基本について知識を取得し、栄養専門職としての重要性を理解し、研究の結果を日々の業務に適宜反映するとともに研究に積極的に貢献できるようになること
- 専門職としての倫理に準拠した姿勢ならびに行動を習得すること
- 公衆に対してプレゼンテーションするスキルを身につける機会を提供すること
- パブリックポリシーや立法のプロセスに対して積極的に支持すること
- 学生は栄養学修士の修得時において、栄養学に関するサイエンスに照らして厳しく評価し、積極的に調査を実施するスキルを身につけること

3. インターン研修または現場実習の施設概要および事例

インターンの研修施設は、近隣の病院および福祉施設等、RDが現在および将来活躍できる職場・職種であり、卒業生が就業しているなど大学と密な関係を維持している施設が多い。インターンの受け入れにあ

たっては、通常当該施設のプリセプターと大学のインターンシップ担当者が話し合い、受け入れやインターンの人数、実習期間とその時期、実習内容（学生の将来の目標に合わせ、適宜調整するため）について合意を得た後、プリセプターが施設において、上長や施設責任者の承諾等の必要な手続きを行う。

学生はインターンシップ中、少なくとも週に1回は大学に通う必要があるため、実習施設は学生の自宅からのアクセスも考慮して、大学関連の医療施設、近隣の公立病院が多い。

特に、UMDNJの関連医療施設は州立大学を運営母体とする大学病院で、教育機関としての役割を担っており、UMDNJで養成する多種類の医療従事者の実習施設として、レベル1の外傷治療センター（トラウマセンター）や急性期ストロークセンター、心疾患専門施設、新生児集中ケア機関、研究も兼ねた脊椎損傷プログラムや肝移植プログラム等を有し、医療専門職の養成プログラム、専門職の養成や新技術の習得、継続教育プログラム等、地域の中核となる医療施設の役割を果たすとともに、医療の発展に欠かせない各種研修プログラムの受け皿としての機能を担っている。

UMDNJにおける主な実習施設を以下に示す。（ ）内は州内の所在地名である。

1) 急性期病院

- UMDNJ-University Hospital (Newark)
- UMDNJ-New Jersey Dental School (Newark)
- Community Medical Center (Toms River)
- Fresenius Medical (Toms River)
- Hackensack University Medical Center (Hackensack)
- Monmouth Medical Center (Long Branch)

- Morristown Memorial Hospital (Morristown)
 - Mountainside Hospital (Montclair)
 - Newark Beth Israel Medical Center (Newark)
 - Jersey Shore Medical Center (Toms River)
 - John F. Kennedy Medical Center (Edison)
 - Hunterdon Medical Center (Flemington)
 - Raritan Bay Medical Center (Perth Amboy, Old Bridge)
 - Robert Wood Johnson University Hospital (New Brunswick)
 - Robert Wood Johnson University Hospital (Rahway)
 - St. Barnabas Medical Center (Livingston)
 - St. Clare's Hospital (Denville)
 - St. Peter's Medical Center (New Brunswick)
 - Somerset Medical Center (Somerville)
 - Staten Island University Hospital (Staten Island, NY)
 - Trinitas Medical Center (Elizabeth)
 - University Medical Center at Princeton (Princeton)
 - The Valley Hospital (Ridgewood)
- 2) 専門医療施設 (心疾患、糖尿病、透析、摂食障害)
- UMDNJ-Cancer Institute of New Jersey
 - UMDNJ-Institute for Complementary and Alternative Medicine (Newark)
 - Cardiovascular Care Group (Bellville)
 - Center for Diabetes Education at Community Medical Center (Forked River)
 - Diabetes and Endocrinology Assoc. (Hamilton)
 - Diabetes Center of New Jersey/Solaris Health System (Edison)
 - Dialysis Clinic Inc., RWJ Dialysis Center (North Brunswick)
 - St. Clare's Hospital, Regional Diabetes Center (Dover)
 - Kessler Institutes for Rehabilitation (West Orange, Saddle Brook, Chester)
 - Health South Rehabilitation Hospital (Toms River and Tinton Falls)
 - Inglemoor Rehabilitation and Care Center (Livingston)
 - Overlook Hospital Eating Disorders Program (Summit)
- 3) 長期療養施設・グループホーム等
- Health Barn, USA, Inc. (Wykoff)
 - New Jersey Veterans' Home (Menlo Park, Paramus)
 - Ocean Medical Center/Meridian Health System (Brick)
 - Runnels Specialized Hospital (Berkeley Heights)
 - Care One (Teaneck)
 - Cranford Health and Extended Care (Cranford)
- 4) 食糧保障、公衆栄養プログラム等
- Community Food Bank of New Jersey (Hillside)
 - Wakefern Food Corporation (Edison)
 - Pathmark Stores, Inc. (Montvale)
 - Rutgers University-NJ Food Stamp Nutrition Education Program
 - (Essex Co., Ocean Co.)
4. 指導対象: インターンシップ受け入れ要件
- UMDNJ のインターンシップには、2 種類 (トラック 1 とトラック 2) がある。トラック 1 は学士を取得した学生のための

プログラムであり、UMDNJ あるいは他大学を卒業し、下記の受け入れ要件を満たした学生が UMDNJ のインターンシッププログラムに参加することができる。トラック 2 は大学院生のためのプログラムであり、UMDNJ あるいは他大学で学士を取得した学生が、UMDNJ における大学院入学要件ならびにインターンシップ受け入れ要件を満たす必要がある。なお、インターンシップの時間は、大学院修了要件の一部となる。

1) トラック 1

- (1) 認定要件を満たした大学の栄養学学士あるいは関連した分野の学士号の取得であり、取得した単位は、Didactic Programs in Dietetics (DPD) のために、Commission on Accreditation for Dietetics Education (CADE) が認定した学科単位をすべて含むこと。
- (2) 取得した単位の成績平均点 (Grade Point Average: GPA) は 2.5 以上であること。
- (3) 英語が第二外国語の学生においては、TOEFL スコアが筆記試験では 550 以上、コンピューター試験では 213 以上、インターネット試験では 79 以上であること。
- (4) 応募は UMDNJ-SHRP の指定の用紙に必要事項を漏れなく記入すること
- (5) 面接を受けて、それにより受け入れを認められること

2) トラック 2

コンバインド (統合) インターンシップ / 修士必須 としてのインターンシップである。インターンシップを予定している学生は、実施に向けて上記に記載したすべての必須要件を満たし、さらに大学院入学における必要条件 (下記) を満たすこととされる。

- (1) 一般化学ならびに実習の履修を 1 年
- (2) 有機化学の履修を 1 年、或いは有機

化学と生化学の履修を各 1 学期ずつ

- (3) 少なくとも化学 (上級) を 12 単位履修

- (4) 大学院進学適性試験 (Graduate Record Examination: GRE) の終了。GRE は 1150 以上 (高等ならびに点数)、GPA は 3.0 以上が好ましい

インターンシッププログラムの受け入れは選抜制であり、ダイエテティックインターンシップ受け入れ選考委員会の責任の下に決定する。委員会のメンバーは、学科ならびに臨床の教員 9 名で、プログラムディレクターの方針にしたがって決める。委員会は、志願者の全般的な知識やコミュニケーション能力、各々のキャリアゴール、リーダーとしての潜在能力等を総合的に判断して選考する。定員、受け入れ人数、修了者人数は、その年のインターンシップを希望する学生の数によって異なり、また受け入れ人数も異なる。

研修・実習費は、単位数 (30 単位) に応じて決定する (州立大学の場合、学費は州在住者、非在住者によって異なる)。インターンシップの修了要件は、各単位の修了要件 (プロジェクトの評価、カリキュラムで決められているコンピテンシー評価に基づく) を満たすこととしている。

5. 指導担当者

大学側の指導担当者は、インターンシップディレクター 1 名、臨床コーディネーター 1 名、職員 1 名で構成されており、その資格基準については、大学の職員 (フルタイム、パートタイムを問わない) であること、臨床や公衆栄養に関して実務経験があること、修士号取得以上であることが望ましいとされている。

6. 指導内容：カリキュラム

UMDNJ のダイエテティックインターン

シップは、実習期間中に主たる栄養学の分野において効率よく学ぶことができるよう、教室における指導と臨床における経験を適宜組み合わせている。実習生は、実習開始前の夏季に様々な課題に取り組み、臨床に必要な基礎的な知識の整理や様々なツールに精通することにより、準備をする。インターンシップ期間中、インターンは、通常週のうち4日を実習先で学び、1日を教室で医療や公衆栄養、フードサービスに関連する講義や文献についての討議、フィールドの見学、実習先での臨床経験についての意見交換等をする。

実習におけるコースの詳細は下記に詳述するとおりで、配分した時間数 (Hour) を反映した単位となる。

1) 臨床実習：ツールとテクニック

インターンが栄養ケアマネジメントにおける基本を学ぶコースであり、コミュニケーション、インタビュー（患者への質問）や栄養アセスメントの基礎、チャートへの記入方法、栄養ケアのプランニング、カウンセリング方法、教育法、教育資料の作成等を学ぶ。このコースで学ぶ内容は、インターンシップおよび臨床実習に不可欠な知識が盛り込まれている。(3単位)

2) 臨床栄養（アドバンスコース）I/II

このコースは、16週間の臨床実習であり、入院の外科手術、集中治療における栄養サポート、人工透析、糖尿病、リハビリテーションを含む。栄養療法としては、すべての年齢層における予防プログラムの経験も含む急性期・慢性期の栄養介入を経験する。

その間、教室においては、正常ならびに予防としての栄養療法、栄養治療の基本について学ぶ。特に、生理学、病態学、内分泌学、薬理学、個々に応じた栄養療法の調整についての知識を

習得する。また、この分野についての先行研究、適用についてのプレゼンテーションや症例検討を通じて討論する。(14単位)

3) 栄養士を対象としたマネジメントセミナー

栄養士として必要なマネジメントと経営管理について学ぶコースである。

特に、組織のプランニング、人事のマネジメント、金銭の管理、フード・マネジメント、継続的な（サービスの）質の向上、衛生管理、研究の方法についての知識の習得を目的としている。このコースの現地応用として、9週間の臨床実習が割り当てられており、インターンは、給食管理、老年学、栄養管理のマネジメント、公衆教育とスタッフのマネジメントについて実習する。経営管理の実習は、インターンによる一連のコミュニティのアセスメントとリサーチのプロジェクトの実施で修了となる。(5単位)

4) 公衆の健康と栄養

このコースでは、さまざまな公衆の健康・栄養サービスを提供するプログラム実施機関や公共機関で実習する。インターンは、予防、介入、治療のそれぞれの段階における栄養ケアと教育プログラムを観察・実習する。特に公衆の健康プロモーション、歯科衛生、食糧保障では実習を行う。インターンはまた、様々な立法に関する活動や、飢餓救済活動、1週間のクロストレーニングとマルチスキリング活動に参加する。(3単位)

5) 母子栄養

母子栄養に関連する分野では、2週間にわたる様々な成人・青年を対象とした産前・産後サービスを含む。それに加えて、乳児と小児の慢性疾患に関

連したサービスに2週間従事する。教室では特に、産前・産後の生理学的変化と妊婦の栄養学的ニーズについて学ぶ。乳児、小児、青少年の栄養学的ニーズについても学習し、各年齢における正常な発育・発達と疾患の見極めや、栄養不良が乳児や小児の正常な精神面、身体面、感情面での成長と発達に及ぼす影響について習得する。(5単位)

<http://www.umdj.edu/education/index.htm> (2009/3/28)

7. 卒後の継続的専門教育

臨床栄養学分野の卒後教育プログラムは、UMDNJ の Center for Advanced and Continuing Education (上級・継続教育センター) と大学院栄養科学分野との共同で開講されており、栄養士登録委員会 (Commission on Dietetic Registration: CDR) が公認する継続的卒後教育 (Continuing Professional Education: CPE) の提供機関として、定期的 (各季に8～10回, 1回は1～3日) にセミナーやカンファランスが開催されている。

参考文献

- 1) Dietetic Internship Programs, School of Health Related Profession, UMDNJ, <http://shrp.umdj.edu/programs/dietetic/index.html> (2009/3/28)
- 2) Graduate Programs, School of Health Related Profession, UMDNJ, <http://shrp.umdj.edu/programs/graduate.html> (2009/3/28)
- 3) Graduate Programs in Clinical Nutrition, School of Health Related Profession, UMDNJ, <http://shrp.umdj.edu/nutr/cpe> (2009/3/28)
http://shrp.umdj.edu/nutr/gpcn_course_schedule.html(2009/3/28)
- 4) Education, UMDNJ,

事例 ⑤ University of Illinois at Chicago

イリノイ大学シカゴ校人間栄養学部応用保健科学科の事例

渡邊 智子 千葉県立衛生短期大学教授

1. 人間栄養学科の栄養士資格取得のためのコース

イリノイ大学シカゴ校(University of Illinois at Chicago UIC)では、栄養士資格取得のためのコースは3つある。これらは、DPD プログラムを未修了の学生のために設定されたコースである。

①栄養学学士取得コースー BS/CP

学士取得のための構成プログラムには、ADA 規定の栄養学コースと1100時間の実習が含まれ、修了すると、栄養士の国家試験が受験できる。RD 試験に合格すると栄養士(RD)の資格が取得でき、栄養食品分野において種々の職種に就業できる。

②人間栄養学及び栄養科学学士の取得コース(NS プログラムー DPD あるいはノンDPD) コース

臨床栄養士の分野へ進路を希望する学生、また栄養学、医学、歯科、公衆衛生の分野に更なる学位の取得を希望する学生のためのコースで、ADA 公認プログラム(DPD)と呼ばれる。栄養学学位取得者が栄養学に進む場合、ADA で比較栄養学のインターンシップに応募できる。プログラム取得証明をサイト(http://www.eatright.org/cps/rde/xchg/ada/hs.xsl/career_2191_ENU_HTML.htm)で資格免許試験を受ける基準を満たしているかが確認できる。しかし、これには医療実

習は含まれていない。

③修士課程コースー MS/CP

大学院レベルの栄養学のカリキュラムとRDの受験に必要な1200時間の実習が含まれている。入学時、学生の学歴・目的に応じ担当アドバイザーが各自に適したプログラムと一緒に作る。プログラムの修了までには、一般的に全日制で3-4年かかる。

*なお、科学分野でない学士取得者は、①の栄養学学士取得プログラムを勧めている。1, 2年目までMS/CPへの変更という選択ができるからである。変更した時点で大学院へ入学しなければならない。また、適切な選択をするためには、相談窓口の人間栄養学学生アドバイザーに相談できる。

2. 「栄養学学士取得コースー BS/CP」と「人間栄養学及び栄養科学学士(NS プログラムー DPD あるいはノンDPD)コースに」について

2-1. 入学前に必要な履修科目単位

2つのコース(BSとDPD)に必要な履修科目は同じで表1の通りである。イリノイ大学シカゴ校、もしくは公認のカレッジや大学でC以上の成績でコースを修了していなければならない。

○2つのコース(BSとDPD)の免除科目
入学手続きの時、食品化学、生理学と

解剖学、生物科学コース修了者には免除がある。ただし、取得済みの単位の成績証明書と摘要を提出させ、コースの単位として認めるかどうかをUICが判断する。その他のコースからの免除はない。

○入学願書の提出時に必要な履修科目と単位

入学願書の提出時ではなく、8月末の授業開始日までに必要履修科目単位が取得できればよい。願書提出前に4科目中最低2科目の科学の履修科目単位取得（生物学、微生物学、一般化学、有機化学）が必要である。入学条件を満たし、必要履修科目単位取得修了見込み予定がある限り、春季手続きの際、条件付き入学が許可される。ただし、必要履修科目単位がプログラム開始時まで取得できなければ、入学許可が下りてもプログラムへ入ることができない。

2-2. 願書提出手順

1年に1回、(秋学期のみ)入学が可能である。願書受付締切は1月15日、コースは8月末に始まる。入学願書は9月末までにUICのウェブサイト (<http://www.ahs.uic.edu/hn/>) に掲載される。入学許可は3月末までに決定される。

2-3. 入学手続きの手順

入学志願者数と合格者数：

「栄養学学士取得コース」と「人間栄養学及び栄養科学の学士取得コース」の合計の志願者は約120名である。「栄養学学士取得コース」へは年間20名、「人間栄養学及び栄養科学の学士取得コース」へは30-35名入学が許可される。

入学許可：

ポイント・システムを導入し各志願者を客観的に評価している。「栄養学学士取得コース」への志願者のGPAを総合的に考慮し、科学と必要履修科目単位ポイントの平均値を出す。総合ポイントの

約70%はGPAが占め、残りの30%は推薦状と面接質疑書によって採点する。志願者の成績最上位者は、学部教授による面談をUICで行う。「栄養学学士取得コース」の不合格者は、自動的に「人間栄養学および栄養学科学士取得コース」への入学が考慮される。

「人間栄養学および栄養学科学士取得コース」のポイントは100%GPAを基準とし、志願者の高得点者順に入学が許可される。入学資格を満たしている残りの志願者は補欠リストになる。入学合格者が辞退した場合、このリストから繰り上げされる。

入学合格者の基本的なプロフィール：

GPA最低平均2.5以上(最高4.0中)が必要と考えられる。過去のデータでは、志願者のGPAの総体的、科学的累積平均が3.6で入学しているが、評価の30%はGPAを基準としていない。栄養学分野のボランティア活動や栄養士として担う役割の理解が入学へのチャンスを広げる。

昨年度の「人間栄養学および栄養学科学士取得コース」の合格者のGPAの総体的、科学的累積平均は、3.4であった。

2-4. 学習プログラム—各コースの比較

「栄養学学士取得コース」および「人間栄養学および栄養学科学士取得コース」の学習プログラムを表2に示した。「人間栄養学および栄養学科学士取得コース」のDPDコースは、栄養学インターンシップ希望の学生を対象としている。ノンDPDコースは、栄養士志望ではない学生対象—保健関連分野の修士課程志望、医学部、歯学部などを志望する学生を対象としている。

○「栄養学学士取得コース」および「人間栄養学および栄養学科学士取得コース」の学生の基本的な1週間

「栄養学学士取得コース」の最初の3

学期は全日制である。ほとんどのコースは午前8時～午後5時までである。実習は第4学期の春学期に始まり、第6学期の夏学期・秋学期まで続く。実習のローテーションは、シカゴ地区の病院・診療所（クリニック）・研究所・地域社会・ビジネスの中の様々な実習場所で栄養士と一緒に学ぶ。

「人間栄養学および栄養学科学士取得コース」は、全日制を基本とする4学期であるが、全日制でなく授業を取ることでもできる。その場合、4学期以上の時間が必要となる。

○UICで学ぶメリット

「栄養学学士取得コース」は、教室内学習と臨床診療実習が含まれるため、このコース修了後、資格試験の受験資格が得られる。イリノイ州内では、UICだけがこのプログラムを持っている。医療系の科目は、経験豊富な医療技術者が教えている。2001年以降、栄養士国家試験の合格率は、全米平均84%に比べ、UICの「栄養学学士取得コース」卒業生の合格率は94%以上である。最先端医療と科学に基づく教育が栄養学分野においてトップレベルで学業にチャレンジする精神を養う土壌を提供している。

「人間栄養学および栄養学科学士取得コース」は、栄養学の十分な基礎が栄養学インターンシップ・プログラムへとつながり、医学部や大学院などの関連分野の職に従事することができる。全科目を、栄養学修士号、もしくは博士号取得者が教えている。成績優秀な卒業生は、人間栄養学の分野で活躍している。

3. 「修士課程コース（MS/CP）」について

3-1. 入学前に必要な履修科目と単位数
必要履修科目単位は表3の通りである。

上級栄養学は、コース1年目に設定される。UICが開設しているコースと同等、あるいは公認の大学のコースを成績C以上で修了していなければならない。

○願書提出時までに必要な履修科目と単位

8月末の授業開始日までに必要履修科目全単位を取得すればよい。しかし、4科目中最低2科目の科学単位（生物学、微生物学、一般化学、有機化学）を願書提出前に取得していることが必要である。

春季手続きの際、必要履修科目単位取得修了見込みで入学条件を満たしている学生は、条件付き入学許可される。しかし、必要履修科目全単位が取得できなければ、入学許可が下りていてもプログラムへ入ることができない。

○修士課程の科目

栄養学学士および修士取得のための科目は表4の通りである。各学生の学歴により異なる。

○「修士課程コース」に関する詳細

最初の6学期間、全日制での学業を原則として修了できる。修士課程は論文と研究を含み、400～500レベルの履修科目最低36単位が必要であり、プロジェクト(597)・論文(598)・個々のコース履修科目を除く500レベル最低9単位を含む必要がある。全日制の学業で約3～4年でコースを修了できる。大学院は、最高5年の科学修士号取得を原則として設定されている。

「修士課程コース」の学生は、研究プロジェクトか論文を完成するために、研究・論文の指導アドバイザーを選択する。有資格教員にアドバイスを受ける承認が得られると、MS/CPコース入学許可の可能性が大きくなる。論文提案書を書き、論文検討委員会を構成する教員3名を選ぶ。研究目標達成のプロジェクト

報告書か論文を委員会へ提出し、基本的に形式に則った口頭で論文発表と答弁を行う。委員は、全員大学院で承認された教員一人間栄養学部、もしくは学部付属の教員2名と学部外の教員1名で構成される。

専門履修科目は、以下の分野から選択する。「キネシオロジーと臨床生理学分野（UICで事前に取得することを強く推奨している）：MVSC/DHD520 障害と運動（3）、MVSC410 加齢と運動機能（3）、MVSC441 抵抗力促進制度（3）MVSC442 心電図（ECG） 解読理論（3）、MVSC542 上級臨床生理学（3）、MVSC545 上級臨床プログラムと評価（3）、DHD520 障害と運動（3）」、「公衆衛生分野：EPID400 疫学概論（3）、EPID403 疫学入門：評価基準と方法（3）、EPID406 疫学的計算（3）、EPID411 慢性疾患の疫学（3）、EPID513 加齢疫学（2）、EPID515 癌の疫学調査（2）、EPID517 心臓血管疾患の疫学（3）、EPID520 疫学における遺伝学（2）、CHSC400 公衆衛生概念と実践（3）、CHSC401 公衆衛生における行動科学（3）、CHSC431 公衆衛生の社会的評価（3）、CHSC432 公衆衛生の分析理論（3）、CHSC433 公衆衛生計画と評価（3）、CHSC434 公衆衛生測定の方法論入門（3）、CHSC480 保健教育と促進（3）、CHSC485 コミュニケーション・マスメディアと公衆衛生の普及（3）、CHSC542 プログラムに該当する母子保健上級（3）、CHSC584 地域保健組織の形成（3）、CHSC586 健康習慣抑制（3）」、「医療科学分野：NUSC420 病態生理学と薬理治療学（pharmacotherapeutics） I（3）、NUSC421 総合健康管理：概念と技術訓練（8）、NUSC423 病態生理学と薬理治療学（pharmacotherapeutics） II

（4）、NUSC530 生涯を通しての看護臨床実習の生理学的原理（4）、NUSC532 疾病の生物学的原理（4）、PCOL430 基礎タクシコロジー（2）、PCOL426 医療薬物学（分子薬理学）I（3）－医学コース、PCOL502 医療薬物学II（3）－医学コース、PHYB551 生体生理学I（5）、PHYB552 生体生理学II（5）、BHIS437 健康管理データ（3）、BHIS460 健康情報理学入門（1）、BHIS480 ビジネス経営管理実践学（3）、BHIS499 生物医学と健康情報科学の情報源（1）、BHIS505 健康情報理学における道德と法律問題（3）、OT406 セラピストとしての向上（3）」、「ビジネス・経営・経営管理分野：ACTG500 財務会計入門（4）、ACTG 管理会計（3）、MGMT447 企業組織（4）、MGMT545 労働－管理関係（3）、MGMT463 交渉と論争解決策、MKTG 経営学入門（4）、PA577 アンケート調査企画（4）、MKTG461 市場消費者行動学（3）、MKTG465 経営企画・管理戦略（3）、MKTG474 宣伝と販売促進」、「健康行政機関分野：COMM416 伝達と矛盾（4）、HPA400 公衆衛生管理制度（3）、HPA402 社会道德と公衆衛生（3）、HPA403 米国健康管理システム（3）、HPA410 保健機構リーダーシップ（3）、HPA430 公衆衛生基準分析入門（3）、HPA431 法と公衆衛生（3）、HPA432 公衆衛生擁護（3）、HPA432/BHIS437 健康管理データ（3）、HPA444 健康管理予算と計画法（3）、HPA451 健康管理財政（3）、HPA460 健康と健康管理経済学入門（2）、HPA463 健康管理経済学（3）、HPA465 保健情報と支援システム（3）、HPA510 健康管理情報システム（4）、HPA531 健康管理コミュニケーション・システム管理（4）、HPA522 健康診断法（3）、HPA525 人口による

保健的危機の管理 (3)」、「栄養カウンセリング分野：BHIS528 消費者健康情報学 (3)、COMM404 講演分析 (4)、DHD430 障害者の基準と組織入門 (3)、DHD440 障害者対象コミュニケーション支援システム技術入門：理論と実践 (3)、OT401 成人・青年専門分野実習(4)、OT406 セラピストとしての向上 (3)、OT536 疲労と障害 (3)、PT622 精神身体医学理論と実践 I (3)、PT623 精神身体医学理論と実践 II (3)、PSCH481 面接 (質疑応答) (1)、PA577 アンケート調査企画 (4)」である。なお、これらのコース規定やカリキュラムは変更される場合がある。

4. まとめ

UIC の栄養士資格取得のためのコースは、①栄養学学士取得コース－BS/CP、②人間栄養学及び栄養科学の学士 (NS プログラム－DPD あるいはノンDPD) コース、③修士課程コース－MS/CP の3つがある。各コースとも、入学基準が明確に定められ、めざす栄養士のための充実したカリキュラムになっている。特に、「修士課程コース」は、人を対象にした充実したカリキュラムであるとともに、研究・論文の指導体制が明確示され、学生の研究・論文の充実が推察される。

なお、付録として臨床診療 I のシラバスを示した。

5. 参考文献

- 1)UIC Department of Human Nutrition
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT CHICAGO
COLLEGE OF APPLIED HEALTH
SCIENCES Information on Degree
Programs 2007-2008
- 2)University of Illinois at Chicago HN
321: Clinical Practice I 2007

資料 付録：2007年のシラバスの一例 「臨床診療Ⅰ」

1. 講師：ジェイミー・サットン MS, RD, LDN 氏とキーステン・ストローガン RD, LDN氏が担当する。
2. 期間：5月29日～6月15日
3. 日時：クラス：月曜日—午前10時～午後2時、実習：火曜日～金曜日（指導官による時間変動制）の8時間
4. 場所：クラス：教室607、実習：イリノイ州立大学シカゴ・メデイカル・センター（UICMC）
5. 教科書：The Language of Medicine(8th Edition) by Davi-Ellen Chabner
Food-Medication Interactions(14th Edition) by Pronsky, et.al. (必須)
Mosby's Manual of Diagnostic and Laboratory Tests by Kathleen Deska Pagana, Timothy J. Pagana
6. 必需品：白衣・学生証・筆記用具・クリップボード・電卓
7. 追加参考書：医学辞書（Mosby'sを推薦）・Hines Clinical Dietetic Reference Pocket Guide
8. 概要：臨床診療Ⅰは、臨床栄養学と病院現場への第一歩の体験を主な目的としている。数多くの栄養士とさまざまな現場で実習する。遅刻厳禁であり役割が終了するまで帰れない。常に率先して積極的に何をすべきかを尋ねる。医療知識を高めるために栄養士から予定外の仕事が与えられることも予想される。どのような場合にも常に職業に徹した態度で臨むことが必要である。現場では、UIC構成プログラムの、また、UIC栄養サービスの栄養士学生として評価されることを常に忘れないこと。
9. 目標：1. ジェミニ・システムの医療チャートを解釈できる、2. 基本的栄養の質疑応答（インタビュー）を行える、3. 基本的な栄養の見解が書ける、4. 臨床栄養評価法（SGA）を使って栄養失調を見つけ、正しい診断ができる、5. 栄養状態と栄養の危険性の違いを区別できる、6. 医学用語の略語と医学術用語の定義を明確にできる。
10. コースの中では以下のADA資格規定を満たす：CD1. 栄養学専門分野の倫理規定に従って実行する、CD6. 情報伝達活動における現テクノロジーを使用する、CD8. 指導下にある医療現場で栄養学教育がなされる
CD30. 患者/依頼人の栄養審査を実行する、CD33. 患者/依頼人の健康状態に従い、栄養管理計画を作り、実行する、CD39. 患者/依頼人を健康と栄養の実態と必要性に応じて地域の適切な機関に、また、主要な援助機関へ照会する、CD42. 多文化・多宗教の人々へ生涯・幼児・高齢者医療などを通し、栄養管理支援をする
コースの中で以下のADA資格規定が導入される：CD7. 栄養評価とカウンセリングの書類を作成し、管理する、CD9. カウンセリング・教育・また、一般的な疾患一例：高血圧・肥満・糖尿病・憩室疾患などの単純な臨床栄養治療を必要とする患者/依頼人の健康向上/疾病予防相談に応じる、CD31. 一般的な疾患一例：高血圧・肥満・糖尿病・憩室疾患などの単純な臨床栄養治療を必要とする患者/依頼人の栄養評価をする
11. スケジュール：5月29日（火）：ジェミニ・トレーニング 午前11時～午後5時、5月30日（水）：病院の食堂の指定場所に午前9時集合（ギフトショップ近く、カフェ

- テリアの非常口付近に位置する)、午前9時～11時半 オリエンテーションとチャート復習、12時半～午後4時 担当RDと会い、病院ツアーと見学、*担当RDから木曜日の待ち合わせ時間と場所が通知される、6月4日(月):*教室601で授業(第一週目の課題提出締切)、医学用語略語クイズ、講義/ディスカッション/実習:臨床栄養評価法(SGA)とPES報告書、6月11日(月):(第二週目の課題提出締切)講義/ディスカッション/実習:ADA倫理規定と資料・CPIの概要について話し合う、6月18日(月):(臨床ローテーション任務の締切、第三週目の課題提出締切、医学用語宿題締切)講義/ディスカッション/実習:専門知識の習得ポートフォリオ。
12. 課題:日誌をつけ、週ごとに提出する。日誌は、フリースタイルで日々の仕事の要約を含め、教室内学習と病院現場経験との関連性、また、それに対する各自のコメントを記入する。1日分量は、4分の1ページから半ページとする。
 13. 臨床ローテーション任務:臨床ローテーションはそれぞれの方針に従う(例:総合医療・循環器科・産婦人科など)。最初に各自の担当指導栄養士が受け持つ分野に則したローテーションの任務を行う。特殊分野栄養学に備えるのに大変役立つので、必ず行うこと。
 14. 医学用語の課題:教科書「The Language of Medicine」は2枚のCDR付きで、各章に「chapter challenge」というクイズがある。このクイズで90%以上の正解することが必要である。90%未満の場合、90%以上に達するまで何度も受けなければならない。単位取得にクイズの成績提出が義務づけられている。
 15. 評価:ローテーションの第3週か4週に指導栄養士から評価が出される。この指導栄養士と一緒に時間は短いので、初日に評価について話し合いの時間をもつことが重要であり、必ず評価のコピーをもらうこと。最終週の役割が観察され、適切なよい評価がなされるために、自分が評価される判断基準を指導栄養士に確認すること。最終日に、担当指導栄養士から評価が出され、一緒にこの評価を確認する。自分の得意分野、また、勉強が必要な不得意分野がわかる。これにサインして、翌週の月曜日にこの科目の担当講師(ジェイミー氏)に提出する。
 16. 専門職としての心構え:担当指導栄養士の意見に基づき、時間的正確さ、服装診断、病院現場での職業適正を考慮し、担当講師が成績をつける。締切までに提出物が提出されない場合、CPIIのスタートが遅れる。
 17. 成績評価:評価(第3週目に完成)=50ポイント、医学術用語ローテーション課題(20ポイントが11回)=220ポイント、医学略語クイズ=100ポイント、週刊役割(20ポイントが3回)=60ポイント、医学用語Language of Medicineの課題=200ポイント、専門職としての心構え=70ポイント、合計700ポイントである。
 18. 合格基準:560～700ポイント=合格、560ポイント以下=不合格。実習成績で79%以下は不合格である。この場合、UIC病院でCPIローテーションを再度するチャンスがあり、合格すれば次のローテーションに進むことができる。2度目とも不合格の場合、プログラムから除外される。
 19. コミュニケーション:臨床診療実習に関する疑問、心配事、質問等は講師に相談できる。講師は、学生を支え、助けるのを仕事と考え、問題が小さいうちに相談することを推奨している。講師は医療現場での学生一人一人と毎週確認をとることを考えている。
 20. 欠席/病欠:ローテーションの期間、病気になった場合、担当指導栄養士と講師に至

急連絡する。欠席した分の補充スケジュールが作成される。欠席1日に対して3日分を、1時間欠席の場合、3時間分の埋め合わせが課せられる。医師の病気証明書がある場合、1日欠席分は1日、1時間欠席分は1時間の補充が認められる。RDとの打ち合わせ欠席の場合も埋め合わせなければならない。すべての補充が終了するまで評価は出さない。

21. 服装規定：医療現場で働く時の服装は、清潔でアイロンがかけてある前ボタンの標準丈の白衣を着用する。女性：ワンピース、スカート、ドレスシャツ、セーター、ドレスパンツ。スカートはひざ丈かひざ下丈。ネックラインが広く開いたもの、Tシャツ、トレーナー上下、へそが見えるような短い丈のブラウス、サンドレス、ジャンプスーツ、ジーンズは厳禁です。また、ストレッチ・パンツ、短パン、デニムパンツ、デニムスカートも禁止。男性：ストレート・ドレス・パンツ、ドレスシャツ、ネクタイ。シャツは長袖でも短い袖でもよい。シャツと、ネクタイ着用の上であれば、セーターの着用は可能、オックスフォード・シャツ、色つきストライプ・シャツ、チェック柄シャツもよい。カーキ色のカジュアル・ストレート・パンツ、裾の折り返しのあるパンツの着用も可能。デニムパンツは禁止です。医療現場では、いつもダークカラーのソックスの着用が必要。靴：履きやすい靴。ジム靴、つま先がカバーされていない靴は禁止。素足での着用も禁止、ソックスかストッキングを着用すること。貴金属：医療現場では最小限に抑え、控え目に。小さなイヤリング、指輪、時計、ブレスレット、ネックレスは可能。

○まとめ

臨床診療Ⅰは、2週間と短期間であるが、コース目標、詳細なスケジュール、課題が組み込まれ、専門職としての心構え、服装まで規定されている。成績評価方法、合格基準および実習期間におけるコミュニケーションについて示され、UICが求める栄養士を学生自らの努力とともに、担当講師および現場での指導者がとともに育てる意志が示されている。

資料 イリノイ大学シカゴ校 カリキュラム表

表1. 「学士取得コース」と「人間栄養学及び栄養科学の学士取得コース」の履修科目と単位

コース名	科目名	単位数
英作文1	文学・ライティング入門	3
英作文2	文学・ライティング中級	3
スピーチ	口頭コミュニケーション	3
一般生物学（細胞生物学中心）	実験も含めた一般生物学	5（実験を含む）
微生物学	1科目（実験を含む）	5（実験を含む）
一般科学	1科目（実験を含む）	5（実験を含む）
有機化学	1科目（実験を含む）	5（実験を含む）
食品	1科目（実験を含む）	3
栄養	入門レベル科目	2
数学	大学レベル、もしくはそれ以上の代数学	5
統計学	1科目	3
心理学	心理学入門、あるいは人間行動学	3
社会学	社会学入門	3
人文科学	創作芸術1科目と 芸術の歴史的背景の理解 1科目	各3
選択	1セメスター最低60時間、もしくは1クォーター 90時間	

*コース開始時から5年以内に全科目を修了すること。
 注意事項：入学前に必要な履修科目は突然変更される場合がある。必要な科目を取得したか否かは各自の責任において確認すること。

表2. 各コースの学習プログラム

「栄養学学士取得コース」	「人間栄養学および栄養学科学士取得コース」(DPD*)	「人間栄養学および栄養学科学士取得コース」(ノンDPD*)
3年生 秋学期： BCMG307 基礎生化学 (3) MVSC251 生体生理学的分析学Ⅰ (5) HN200 栄養指導 (3) HN308 栄養学Ⅰ (3) 学期取得単位数：14	秋学期： BCMG307 基礎生化学 (3) MVSC251 生体生理学的分析学Ⅰ (5) HN200 栄養指導 (3) HN308 栄養学Ⅰ (3) 学期取得単位数：14	秋学期： BCMG307 基礎生化学 (3) MVSC251 生体生理学的分析学Ⅰ (5) HN200 栄養指導 (3) HN308 栄養学Ⅰ (3) 学期取得単位数：14
春学期： MVSC252 生体生理学的分析学Ⅱ (5) 学期取得単位数：14	春学期： MVSC252 生体生理学的分析学Ⅱ (5) 学期取得単位数：14	春学期： MVSC252 生体生理学的分析学Ⅱ (5) 選択科目 (3) 学期取得単位数：14
4年生 秋学期： HN202 食物と文化 (2) HN300 食品科学 (3) HN311 ライフサイクルにおける栄養学 (3) HN320 臨床栄養学Ⅰ (4) HN332 フードサービスマネジメント (2) HN366 遺伝子学、栄養学と健康 (2) 学期取得単位数：16	秋学期： HN202 食物と文化 (2) HN300 食品科学 (3) HN311 ライフサイクルにおける栄養学 (3) HN320 臨床栄養学Ⅰ (4) HN332 フードサービスマネジメント (2) HN366 遺伝子学、栄養学と健康 (2) 学期取得単位数：16	秋学期： HN202 食物と文化 (2) HN300 食品科学 (3) HN311 ライフサイクルにおける栄養学 (3) HN320 臨床栄養学Ⅰ (4) HN366 遺伝子学、栄養学と健康 (2) 選択科目 (3) 学期取得単位数：16

「栄養学学士取得コース」	「人間栄養学および栄養学科学士取得コース」(DPD*)	「人間栄養学および栄養学科学士取得コース」(ノンDPD*)
春学期： HN306 栄養教育学 (4) HN335 フードサービス実習 (4) HN340 セミナー (1) HN341 研究法理論 (2) HN420 臨床栄養学Ⅱ (2) HN422 臨床栄養学Ⅲ (2) 学期取得単位数：15	春学期： HN306 栄養教育学 (4) HN340 セミナー (1) HN341 研究法理論 (2) HN420 臨床栄養学Ⅱ (2) HN422 臨床栄養学Ⅲ (2) 選択科目 (5) 学期取得単位数：16 総合取得単位数：60	春学期： HN340 セミナー (1) HN341 研究法理論 (2) HN420 臨床栄養学Ⅱ (2) 選択科目 (10) 学期取得単位数：16 総合取得単位数：60
夏学期： HN321 臨床診療Ⅰ (2) HN 421 臨床診療Ⅱ (4) 学期取得単位数：6		
秋学期： HN312 ライフサイクル実習における栄養学 (2) HN423 臨床診療Ⅲ (5) HN450 専門職実務 (6) 学期取得単位数：13 総合取得単位数：78		

表3. 修士課程コースに入学する前に必要な履修科目単位

コース名	科目名	単位数
英作文Ⅰ	文学・英作入門	3
英作文Ⅱ		3
スピーチ	口頭コミュニケーション	3
生物学*	実験を含む一般生物学(細胞生物学中心)	5
微生物学*	実験を含むコース	5
有機化学*	実験を含むコース	5
一般化学	実験を含むコース	5
食物学	実験を含むコース	2
栄養学	入門コース	2
数学	大学レベル、もしくはそれ以上の代数学	5
心理学	心理学入門、もしくは人間行動学	4
社会学	社会学入門	3
上級生物化学**	レベル 300 以上 (UIC 校の BCHE307 が該当する)	3
生理学*	(UIC 校の PHYB341 がこれに該当する)	5
上級栄養科学 (2 コース) **	レベル 300 以上 (UIC 校の HN308 と 309 が該当する)	6 (各3)
* コース開始から5年以内に修了しなければならない。		
** CP 学士レベル以上、CP 修士レベルに必要な履修科目単位を示す。 注意事項：入学前に必要な履修科目単位は突然変更される場合がある。必要履修科目を取得したか否かは各自の責任において確認される。		

表3. 修士課程コースに入学する前に必要な履修科目単位

栄養士課程の必須履修科目	修士課程のその他の必須履修科目
<p>1年目 秋学期： BCMG307 基礎生物化学 (3) MVSC251 生体の生理的分析学Ⅰ (5) HN200 栄養指導 (3) HN308 栄養学 (3) 学期取得単位数：14 春学期： MVSC252 生体の生理的分析学Ⅱ (5) HN309 栄養学 (3) HN330 食品生産量 (3) HN413 栄養サービスの公衆衛生 基準制度 (3) 学期取得単位数：14</p>	<p>アドバイザーの許可を得て、CP コースをMS コース に変えることができる。修士号取得するには、修士取 得に必要なすべてのコースを修了していなければならない。</p>
<p>2年目 秋学期： HN202 食文化 (2) HN300 食物科学 (3) HN311 ライフサイクルにおける栄養学 (3) HN320 臨床栄養学Ⅰ (4) HN332 給食経営管理学 (2) HN366 遺伝学、栄養学と健康 (2) 学期取得単位数：16 春学期： HN306 栄養教育 (4) HN335 給食経営管理学 (4) HN340 セミナー (1) HN341 研究法理論 (2) HN420 臨床栄養学Ⅱ (2) HN422 臨床栄養学Ⅲ (2) 学期取得単位数：15 夏学期： HN321 臨床診療Ⅰ (2) HN421 臨床診療Ⅱ (4) 学期取得単位数：6</p>	<p>大学院必須コース：(総合単位数 36) HN510 栄養の生理学的要素 (3) HN595 セミナー (1) HN598 論文研究 (7) BCHE411 生物化学入門 (4) BSTT400 生物統計学 (3) 500 レベルの選択科目 (6) プロジェクト (597)・論文 (598)・個別プログラム を除く 500 レベルの選択科目を最低 9 単位取得しな なければならない。また、科目の選択手続き前に各自の 論文/プロジェクト・アドバイザーの承認を得ること。 なお、HN510 もこの 9 単位数に含まれる。</p> <p>これに加え、以下の CP コースが修士取得単位数に 含まれます：HN413、HN420、HN421、HN422、 HN423、HN450。</p>
<p>3年目 秋学期： HN312 ライフサイクル実態における 栄養学 (2) HN423 臨床診療Ⅲ (5) HN450 専門職実務 (6) 学期取得単位数：13 総合取得単位数：78</p>	

注意事項：カリキュラムは突然変更される場合がある。必要履修科目を取得したか否かは各自の責任に
いて確認される。

事例 ⑥ Ohio State University

オハイオ州立大学における教育の事例

伊藤 薫 南九州大学教授

1. 概要

オハイオ州立大学 (Ohio State University) は、米国北部に位置するオハイオ州の州都コロンバス市に拠点を置く総合大学である。主要学類は 27 部門、学部は 100 以上あり、米国でもきわめて大規模な大学で、学生数は 6 万人を超える。登録栄養士 (Registered Dietitian, RD) の養成を行う Medical Dietetics (臨床栄養学科) は、米国栄養士会 (American Dietetic Association, ADA) の関連委員会である Commission on Accreditation for Dietetics Education (CADE) によって全米で初めて養成プログラムの認可を受けた学科であり、RD 養成に関する教育に関しては CADE により決定される。定員は 20 名前後と少人数教育である。医師教育を行う Clinical Departments と共に医学系 (School of Medicine) に属し、学部名は School of Allied Medical Professions (医療技術学部) といい、作業療法士や理学療法士等の医療従事者のライセンス取得を目的とする学科を含めた 10 学科より構成されている。医学部には病床数 2,000 床以上の総合病院と、外来専門のクリニックが併設されている。

2. 基礎および専門教育

学部の 1, 2 年生は、ライフサイエンスの基礎科目である化学、生物、生化学、解

剖学、病理学、基礎科学実験、食品科学、人間栄養学等を履修し、臨床栄養学科の教員が担当する科目はない。3 年生に進級する場合、1, 2 年生の科目で A~E の 5 段階評価のうち、B 以上の成績でないと臨床栄養学科への進級が許可されない。入学時点では学科入学者は決まっておらず、RD 養成課程への進級者は 3 年生の段階で初めて明らかになる。臨床栄養学科には、毎年平均 20 名前後の基礎学力の高い学生が進級している。3 年生を Junior と呼び、4 年生を Senior と呼ぶ。3 年生以上に対しては RD の資格を持つ教員が全ての講義を行い、3 年後半からの学外研修 (Supervised Practice : SP) に向けての講義が行われる。1, 2 年生で基礎が出来ているため、Junior からの講義は最先端の内容であり、論文を読みまとめる課題が毎週出され、予習復習が不可欠である (表 1 にカリキュラムを示す)。

3. 学外研修 (Supervised Practice : SP)

SP は 2008 年度まで 900 時間であったが、2009 年度から 1,200 時間に増加することになっている。SP の施設として 82 施設が CADE の許可を受けている。急性期、慢性期施設、老人ホームまたは国の健康増進施設等が含まれる。臨床栄養学科では 4 週間をフードサービス、それ以外の時間を臨床栄養の研修に当て、長期の休暇期間に

実施するため、3年前期には疾病に対するケーススタディ、栄養アセスメント、臨床栄養学やその実習を中心にカリキュラムが組まれている。ケーススタディでは、あらゆる疾病の専門職であるRDを学外から非常勤講師として招き、病院等で行われている最新の対応が教育される。臨床現場で様々なケースに対応できるようにケーススタディによって徹底した準備が行われる。SPは週に4日間、月曜日から木曜日まで行われ、毎週木曜日には大学のSP担当教員が研修施設を巡回し、昼食時に学生による症例報告会が行われる。金曜日には学生は大学で講義を受ける。このように臨床栄養学科では、実践教育が重要視されている。臨床栄養のSPでは、1人の学生が1人のpreceptorと呼ばれる現場の教育担当RDと共に実務を行う。学生は週単位で担当部署を変わり、多くのpreceptorと接していくことになる。付属病院の集中治療室でのSPは、初日はpreceptorと常に行動を共にしたが、2日目からは学生に全ての業務が任せられ、メディカルレコードをチェックし、それに基づいて必要エネルギー量やタンパク質量、食事の種類を選択して、メディカルレコードに記入し、アップデートするという一連の実務経験をする。

4.RDのライセンスと生涯教育

臨床栄養学科のSP施設に勤務するRDは、技術および知的レベルが高く、業務にプライドを持っており、医師から相談を受ける現場も多かった。オハイオ州でRDとして働くためにはADAのライセンスと共にオハイオ州栄養士会(Ohio Dietetic Association)からのライセンスも必要である。これらのライセンスを維持するためには、生涯学習が必要とされ、様々な研修への参加、学会報告、あるいはジャーナルを読み内容をまとめるなどの中から、必要単

位を修得しなければならない。このような生涯教育がRDの実践能力の向上と業務に対するプライドにつながっていた。

5. 結論

臨床栄養学科におけるインターンシップ組込型のプログラムは、全て卒業後の実践活動をシミュレーションした実践教育であり、座学中心の教育ではない。インターンシップはRDのライセンス取得の条件になっており、現場においてpreceptorの監督のもとで実務経験を積むことにより、卒業後の実践能力が確保されていた。

米国で専門職としてのライセンスを持つということは、高収入につながる。医師、薬剤師等の収入は日本と同様に高いが、RDも比較的高収入の部類に入る。ライセンス取得後の年数やキャリアによっても異なるが、年収が\$170,000以上の場合もあり、平均すると年収\$50,000~\$60,000である。臨床現場では、RDも医師、看護師、薬剤師、あるいはソーシャルワーカーや作業療法士などそれぞれの専門職が協力をして医療にあたっており、それぞれの専門職が権限と義務をもち、それぞれ責任を持って仕事を果たしている。看護師は栄養について決定する権限はなく、RDがアドバイスすることになっている。このようにRDが専門職としての地位を確立するため、ADAの関連機関によって養成プログラムと生涯教育を含む育成体制が確立されていた。

参考文献

- 1) Medical Dietetics -School of Allied Medical Professions
The Ohio State University
<http://amp.osu.edu/md/>